

いきもにあ2017講演について

●場所：みやこめっせ地下一階第一展示場「いきもにあ2017」会場内

●日程

・11日（開場時間:11:00～17:00）

12:30～13:15 荻野慎諧「妖怪古生物学への誘い」

14:00～14:45 椎野勇太「やるきの無さが成功の秘訣！？腕足動物の無気力で巧みな機能戦略」

15:30～16:30 クマムシの味って？（仮）（堀川さん、蟲クロトワさん）

・12日（開場時間:10:00～16:00）

11:00～11:45 片山なつ「川苔草にまつわるエトセトラ」

13:00～14:45 増井真那「フシギでカワイイ変形菌」

14:30～15:15 林亮太「ウミガメ・クジラに付くフジツボたちのはなし」

●各講演要旨

▶11日（土）12:30～／荻野慎諧（古生物研究者）

妖怪古生物学者（理博）。現在は兵庫県丹波市で、恐竜をいかしたまちおこしを行う。
本当の専門は、哺乳類の食肉類化石の研究。イタチやクマ、レッサーパンダなど。
近著（共著）「荒俣宏妖怪探偵団ニッポン見聞録」

（講演タイトル）「妖怪古生物学への誘い」

「科学」という言葉が輸入される以前、見たこともない不思議ないきものに出会った人々は、驚きながらも真正面から向き合っていました。

その成果は、書物というかたちで残され、私たちは今でも触れることができます。

彼らの出会った珍しいいきものは、現在では荒唐無稽なものと考えられているものも数多くあります。

しかし、あるがままをじっくり観察して、見たまま正確に書きとどめたものもたくさんあるはずで、

それは現代の科学のまなざしと変わりはありません。

だとしたらどうでしょう。

出会った妖怪や化け物が、「いる」という前提でしっかり記載された書物を読みなおすと、もしかすると今ならば正体が分かるかもしれません。

今では絶滅しているいきものも、分布域が異なっているいきものも、もしかしたら記載されていたかもしれません。

そんな見方からはじまったのが妖怪古生物学です。

去年あたりからちょっと有名になった「ぬえ」という不思議ないきものを例に

「ぬえ＝大型〇〇」説の提唱者が、どう解釈を進めていったのかお話しします。

▶11日14:00～／椎野勇太（腕足動物研究者）

絶滅生物の奇妙な形に興味を持ち、初めて調査した山で大量に採集できた化石腕足動物の研究に熱中している。最近、三葉虫や放散虫の形を題材にした研究や、現生腕足動物の飼育実験にも挑戦中。

（講演タイトル）「やるきの無さが成功の秘訣！？腕足動物の無気力で巧みな機能戦略」

「腕足動物って貝なの？あ！カメノテの仲間でしょ！」

いいえ、どちらも違います。貝に似て非なるものです。現在の海洋には、330種ほどしか生きていないため、海で見かける貝のような生物は、たいてい二枚貝です。

ところが、およそ5.4億年前～2.5億年前の古生代と呼ばれる時代には、今の二枚貝が占めている多くの生態的な地位は腕足動物のものであり、「腕足動物の海」と言われるほど成功を収めた栄光がありました。この繁栄を後押しした原動力は何だったのでしょうか？なぜ、今では二枚貝に競り負けているのでしょうか？これまでの研究で見えてきた、腕足動物の殻形態が備えた生態的な特性と、進化多様性に関する知見を紹介します。

▶12日（日）11:00～／片山なつ（カワゴケソウ研究者）

大学3年のとき、カワゴケソウという不思議な形をもつ植物を知り、その虜に。

以来、卒業研究から博士号取得、その後のポスドクまで約10年間カワゴケソウの形態進化の研究を続けている。

現在、育児休業中。気分転換に趣味の「伝わるデザイン」の活動を活発化している。

（講演タイトル）「川苔草にまつわるエトセトラ」

カワゴケソウ。日本には九州南部にしか生育していないあまり馴染みのない植物である。漢字では「川苔草」と書くことからわかるとおり、川に生えている苔のような草、つまり、その見た目は相当地味だ。草なので草本類、つまり被子植物であるため、れっきとした花を咲かせるが、やはりその花も地味。それでもカワゴケソウは長年世界の植物学者を魅了し、研究が続けられてきた。なぜなのか。今日はその話をしたい。

▶12日（日）13:00～／増井真那

東京都立小石川中等教育学校4年（高校1年生）。変形菌（粘菌）の行動や自他認識に関する研究を10年間続けている。近刊『世界は変形菌でいっぱいだ』（朝日出版社）は初の著作。

（講演タイトル）「フシギでカワイイ変形菌」

変形菌（粘菌）は動物でも植物でもなく、「菌」とつくのに菌類でもない、フシギでカワイイ生きものです。ぼくは5歳で変形菌に出会い、6歳から10年間、変形菌の変形体（栄養をとり動き回る）といっしょに暮らしてきたので、もう「うちの子たち」がいない生活は想像できません。この10年間の研究で変形体についてたくさんの発見をし、ぼく自身の世界も大きく広がりました。今回は、変形菌はどんな生物なのかから始まり、ぼくが見出だした変形体たちの行動のおもしろさ、それに自己と非自己を見分けるすごい力についてお話しします。

▶12日（日）14:30～／林亮太

日本工営株式会社 中央研究所 所属。

（講演タイトル）「ウミガメ・クジラに付くフジツボたちのはなし」

『品川の 沖に止まりし せみ鯨 みなみんなと 飛んでくるなり』（寛政の鯨）

日本で初めてのホエールウォッチングの様子が狂歌で詠まれたように、クジラなどの大型海棲生物は古くから人々の憧れであり興味の対象となってきました。テレビ番組などで見る機会の多いクジラやウミガメ類を代表とするこれらの大型海棲動物には、特異的に付着するフジツボ類がいることが知られています。この講演では、これらのフジツボ類（オニフジツボ超科）の実際の標本を手元で観察しながら、これまでの研究で明らかになってきた生活史や進化の歴史について紹介します。